

「ナデシコガーデンズ」の概要（グループ紹介）

2015-03-03 改訂 グループリーダー：近藤 富雄

☆活動メンバー

兵庫県阪神シニアカレッジ・阪神ひとまち創造講座（伊丹教室）・5期生（2年生）有志9名。
メンバーの居住地は、川西・宝塚・西宮・尼崎市。 地元・伊丹市民は居ない。

☆活動内容

伊丹・桑津橋上流 150m、猪名川右岸・高水敷で 絶滅が危惧される**カワラナデシコ**・別名**ヤマトナデシコ**の 保護・育成をやっている。
尚、当該活動は、絶滅保護対策であり、「花壇づくり」ではない。
現在 200 m²に約210株を植栽して、除草、給水、補植＊、が主作業。
昨秋 種子を採取し、一般配布、河川敷以外での繁殖も活動の一環。
＊ 6～9月の発育期間中でも 移植後 約2割は枯れて、植え替えが必要。

☆活動経緯

2014年4月にチーム結成。基礎調査、河川敷の利用許可などを経て、5月中旬から開墾・整地作業を行い、5月末～6月上旬で 200株強を植栽し、育成させている。
5～9月は3日毎に、秋は5日毎、冬季は10日毎に 現場作業中。
時折、関係諸団体の勉強会に参加して、知識向上を図っている。

☆テーマ選定の事由・動機

- 1、授業のボラの希望ジャンル申告で「自然環境」の者が9名おり、具体的な活動内容を討議し、まず、活動の場所は 集まりやすい 教室・伊丹駅周辺にしたい。となった。
- 2、しかし、○○公園の美化、などローカル的な場所・地区では他市のメンバーには そぐわない。 もう少し、グローバルな内容が良い。
- 3、前年の、校外学習（国崎クリーンセンター、武庫川下流の浄化センター）を通じ、自然環境保全の必要性や、人間の生活・社会活動の「負（マイナス）」の側面も感じていた。
- 4、前年11月の先輩のボラ活動報告会で「カワラナデシコ保全活動」の仲間を求めていた。
⇒これらが、ミックスして この活動テーマになった。
- 5、更に言えば、テーマを仮決めして、猪名川自然保護活動家（河川レンジャー）や、国交省 猪名川河川事務所に河川敷の使用許可を取りに行った時に 猪名川の植物体系の実態を知り、この活動の必要性・価値・有益性 を決定的なことにした。
具体的に 活動を始めた 昨年6月に この筋で有名な専門家（服部先生）の「植物の多様性」とか「猪名川の絶滅危惧状態」の講義で、一段と背中を押された。

☆ 現在までの成果

- 1、ボラ活動の貴重な実体験ができた。 今後の、社会生活に活かされる。
自然環境保護の官・民 共の活動の努力を知った。 自然保全活動の重要性を再認識した。
- 2、狭小面積だが、カワラナデシコの自生地を確保できた。 将来の群生地の足掛かり。
- 3、種子を採取し、広域化、次世代への継承の準備ができた。
- 4、成果は小さいが、先達チームの補完や地域住民への自然保護・再生活動の啓蒙ができた。

☆ 課題（背景と対応策）

1. 活動の継続化。 遠隔地・頻繁で重労働・器具運搬手間。
⇒ 作業頻度・程度の低減。 知識を高め、モチベーションを維持。
2. 野生・自生たる植物にどこまで手を加えるのか？
⇒ 在来雑草と共生状態が自然の姿。「日当たりの確保」を主眼にする。
土壤改良、施肥、薬剤散布は控え、野生の遺伝子に影響を与えない配慮。
「花壇作り」はしない。
3. 増殖時の人的介入の度合いをどうするのか？
⇒ 猪名川水系での採取が鉄則。 極力 多くの茎からランダムに採取する。
冷静に生物の多様性を見守る。 品種改良が目的ではない事の確認。
4. 適時 活動方針・方向の討議・確認が必要。
⇒ 適時メンバー討議で 諸項目のコンセンサスを深めていく。
 - ・保護育成の在り方。 ・国交省・河川レンジャーの基本方針・方策の理解。
 - ・メンバーの情報共有、広報／P R、記録・報告・伝承 策。
 - ・住民啓蒙・参画法。 ・資金面。 ・傷害補償（保険加入）。

以上